

所属	農学生命科学部	氏名	鄒青穎
課題名	津軽十二湖地すべり地の地学・環境教育への活用		

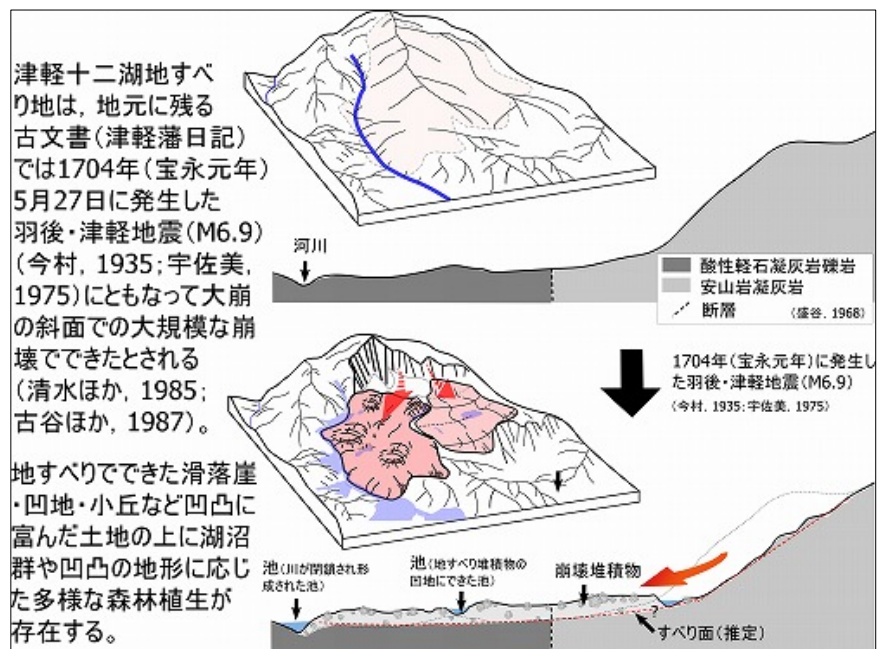
1. 概要

東北の山地は、地すべり地形集中地帯であり活動的な地すべり地も多く、過去にも土砂災害が発生している。一方これらの山地の多くは、自然環境が保全されている山地が地域の観光資源になっている所も多い。このような地すべり地の自然環境は、東北日本の特質として地学観光・教育資源として活用できる可能性がある。本研究では、世界自然遺産にも指定されている白神山地の最西部、青森県津軽国定公園にある約300年前の歴史地震による地すべり地とされる津軽十二湖地すべり地を研究対象として研究を実施し、地すべり地帯の優れた自然環境の利用の在り方や来訪者の安全を考慮した保全・地学観光・教育の取り組みを提案することを目的とする。現在までに残された歴史-地すべり地形に見る痕跡を解析することで、地すべり地形のでき方を明らかにして、地学教育の普及と観光振興の取り組みを提案しようとするものである。また、来訪者の地すべりの認知度向上や利用上の安全確保を考慮した新たな活用を図れようとするものである。研究期間に下記の点を明らかにする。

1. 地すべり地形の分布や微地形を把握し、その地すべりの地形・地質条件を解析することにより、地すべり地の地形景観の特徴やできかたを明らかにする。また、池の分布と水系の流向、水面標高、そして水質の違いなどを調査し、その水文環境を把握することによって、十二湖のでき方の水文・地質・地形の総合的な解釈を行う。

2. 新たな観光・教育利用する方策について、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえ、今年度は、これらの事例について、詳細地形図判読と現地地質調査から地すべりによる地形景観(池、小丘など)のでき方を解明し、専門的内容をわかりやすく地学観光や教育の解説資料(解説書、わかりやすい観光案内マップ、自然学習教材など)を提案する。同時に、地すべり地内めぐる環境と安全に配慮した観光コースや案内看板の設置場所の検討を行う。例えば、

展示されている地学に関する案内看板の多くは、全体に文字が多いため、地学の素養がある来訪者を除く殆どの来訪者が理解するには困難があると思われる。そこで、コンター図に比べ視覚的に地形が理解しやすい立体地図をもとに説明し、前述の地すべり水文・地質・地形調査結果に述べられた関連する他の現象や地質等の情報を加え、視覚的な表現で伝達するなどの工夫を行う。また、散策マップを片手に立ち寄り先を確認しながら現地の情報を得る来訪者もいるが、マップに掲載されている情報は、利用施設や池の場所などポイントの確認的な位置づけが多い。散策ポイント表示にしても、地すべりに関連する十二湖の成因や地すべり地形、地質露頭の状況との関係など十二湖の地学的自然の包括的な説明を行い、地すべりによる十二湖地区の土地の成り立ちとその上の自然環境についての理解を深める。



(1) 十二湖地すべり地形・地質特徴に関する模式図

2. 画像の説明

(1) 十二湖地すべり地形・地質特徴に関する模式図